

特別賞 賞 CLA 2013

相見駅前空間のランドスケープデザイン ～公園をはじめとした駅周辺都市施設のトータルランドスケープ～

株式会社オオバ 小林高浩・松岡史展・廣瀬虎男・伊原康敏・土川 豊・望月啓史・萩野一彦

2012年3月17日、JR東海道本線の岡崎・幸田間に新駅「相見駅」が開業した。地元の幸田町は、駅周辺の先導的都市環境形成計画「相見エコまちづくり計画」を策定し、住民・企業・行政が一体となった環境にやさしいまちづくりを目指している。幸田町と幸田相見特定土地区画整理組合は、活気ある商業施設・集合住宅を駅前の保留地に集積し、駅周辺の都市施設（公共施設）を一体的にデザインすることで、町の玄関口にふさわしい機能・環境・景観性に優れたまちづくりを先導する方針とした。

本作品は、町・組合・住民等との合意形成に務めながら、駅周辺都市施設の基本計画、基本・実施設計、施工監理、まちづくり支援活動までを一貫して取り組み、駅前にふさわしい高質な都市空間形成を目指した一連の業務によるものである。

□土地の記憶を未来のデザインに取り込む

計画地は、南東に位置する遠望峰山（とほねやま）を主峰とする山々に三方向を囲まれている、また一帯は明治時代の干拓前まで菱池（ひしいけ）と呼ばれる湖沼が広がっていた平坦な地形である。

新しいまちのデザインは、これら土地の持つ風土性を原点とし、さらに将来への継承を意図したものである。まちの核となる街区公園を駅東口に配置し、ここを中心に波紋が地域へと広がるような、また求心性を持つような「渦まきパターン」として駅周辺空間の一体化を図った。そして水盤に浮かぶトイレ、芝生広場とひな壇状の石積ベンチ、東・西駅前のモニュメントなどの主要な施設群をパターン上に配置して、機能性を併せ持つ景観要素とした。中でも、広場の中心部にあえて配置して、裏をつくらず地域の自然をイメージし



駅東口の全景、後ろの山並みが遠望峰山、手前はモニュメント「絆-EAST」



地域の自然要素（筆柿、ホタル）をイメージしたトイレ、上は夜景



トータルランドスケープの対象範囲



駅に向かってひな壇状に配置した芝生広場と石積ベンチ



デザイン会議による地元産石材の確認（西ロモニュメントの仮組み）

作品概要

作品名：相見駅前空間のランドスケープデザイン
～公園をはじめとした駅周辺都市施設のトータル
ランドスケープ～
所在地：愛知県額田郡幸田町菱池大字五反割
発注：幸田相見特定土地区画整理組合／愛知県幸田町
設計：株式会社オオバ
監理：株式会社オオバ
施工：株式会社石原組，株式会社加藤工業，和幸建設株式
会社，林建設株式会社
製作：有限会社ホワイトスペース（東口モニュメント），有
限会社額田石材（東口・西口モニュメント）
設計期間：2009年6月～2011年3月
施工期間：2009年12月～2012年3月
規模：約3.2 ha（街区公園面積0.18 ha）
主要施設：街区公園（水景広場，ひな壇状の芝生，トイレ，），
東口駅前広場（モニュメント「絆 EAST」，シェル
ター，駐車帯），西口駅前広場（モニュメント「絆
WEST」，駐車帯），幅30mのシンボル道路（ケヤキ並
木，植栽帯），パーク＆ライド駐車場，特殊道路

作品評

この作品は，事業主体が特定土地区画整理組合と地元自治体
からなる，JR 東海道本線に新たに整備される「相見駅」の駅前
空間のランドスケープ形成を，計画から施工まで一貫して設計
者が携わり実現したものである。
一般に，公共事業のランドスケープ空間形成の場合，設計者
が係わることのできるの設計段階までであり，ランドスケープ
空間の質を最終的に決定する施工段階に介入することは困難
である。本作品では，計画着手から竣工までの期間が限られて
いたこと，事業主体が複数であったことなどから，駅前空間の
ランドスケープを計画から施工まで一貫したプロセスのもとに
つくり上げることを発注者に提案し実現したものである。した
がって，駅前空間という都市の重要な空間デザインに関し，ラ
ンドスケープアーキテクトとしての役割を十分に果たしたことが
高く評価された。
しかしながら，ランドスケープコンセプトとして設定された
「借景の庭をつくる」ために，どのような方針のもとに設計を
を進め，施工段階においては施工者などどのような調整を行って
コンセプトを実現したのかという点が応募作品資料からは読み取
りにくく特別賞という評価に留まった。この点が読み取りやす
く表現されていれば，より高い評価を得たであろう。

てデザインしたトイレは他に類を見ないものとなった。

借景の庭をつくる

新駅舎2階の駅東口展望窓からの眺望景には，背後
の山並みを取り込む「見切り・借景の手法」を用いて
いる。10年後にケヤキ並木が目標樹高（10m）に生長
することを見越して植栽デザインを行うことで，将来
は並木が見切りとなって住宅地が隠され，公園と駅前
広場・街路が一体の主景となる「借景の庭」のような
ランドスケープを実現*し，将来にわたって高質な景
観が維持されることを目指した。（※下図「借景の庭づくり
の空間構成イメージ」参照）

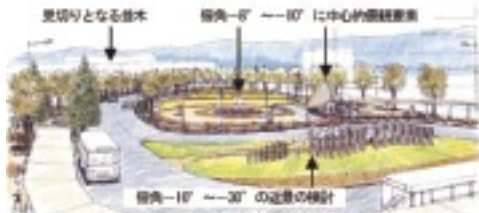
コミュニケーションをデザインする

基本計画段階から施工監理段階まで，関係者が協議
する「デザイン会議」を定期開催した。このプロセス

により目標設定と意思統一が図られ，厳しい日程の中
でも効果的な事業進捗が可能となった。

また，ワークショップを通じた「公園プランづくり」
「緑化ガイドライン作成」や，「緑化講習会」「植樹イ
ベント」「まち探検イベント」などの講習会・イベント
運営，さらには「イメージキャラクター導入」「地域参
加型維持管理活動の話し合い」など，様々なコミュニ
ティ形成支援策を継続的に実施し，まちづくりへの意
識醸成と新旧住民の融和を図っている。

2013年2月に行ったイベントの参加者アンケートで
は，回答者の8割近い人が「地域で公園を清掃する必
要性を感じた」と回答している。新旧住民のまちへの
愛着が深まるよう，引き続きランドスケープの視点か
らのアプローチでまちをデザインしていきたい。



借景の庭づくりの空間構成イメージ（駅東口）



「まち探検イベント」
駅前の公園を主会場として，区
域内5カ所の公園を巡るスタン
プラリーイベントを開催した



「えこたん」
環境と都市交通のイメージキャラ
クターをオリジナルデザインし，エコ
まちづくりのPRを行っている

◇ ランドスケープ基本設計図

◇ 個別検討

①公園トイレ
- 水景に大きな葉が浮かんでいるようなデザイン。
- 半透明のガラス屋根が雨漏れに対し耐性になる。

②水景施設
- うずの中心部は，素材となる直上流水を循環。
この広場はイベント時のステージとしても利用可能。

③6号公園
- 特B5号，駅西側広場，30m道路と一体の空間を形成する。その中，
- 芝生広場，水景施設と一体となった，30m道路，
- 芝生広場の外側に植栽帯を設け，公園全体が植栽のイメージ。公園の広場が「へた」
で「いしが「葉」。
- 芝生広場は，30mとなるうずを見下ろしながら
- 広がる階段状の植栽（階段）をデザイン。
④駅前広場シェルター
- 郵便ポストと材料を合わせた駅前広場のシェルターデザイン。
⑤30m道路
- 将来10mに成長する，高さ8mのケヤキを
- 歩道部中央に植栽。
- 植栽により自転車と歩行者を分離。
- 植栽の間には休憩施設（ベンチ等）を配置。

◇ デザイン会議
- 地元・総合事務所・町・コンサル
- タントで構成する
- デザイン会議を通じて
- 合意形成を図っている。

◇ スタディ模型
- 模型により駅舎の「ト
- 部分から，遠く山並みの山
- 並み景観を「い」に取り
- 込んでいるかを確認。
- 駅前広場全体が一
- 体の空間となっている
- 様子。